

第7回鳥取市市政改革推進市民委員会・議事概要

日 時：令和7年5月22日（木） 午前10時から11時5分

会 場：鳥取市役所 本庁舎7階 第2委員会議室

出席者：《委員》8名出席

山下 博樹 委員長、河崎 誠 副委員長、川口 有美子 委員、谷口 明洋 委員、

大橋 良輔 委員、森田 祐加 委員、土橋 勉 委員、小柴 正子 委員

《鳥取市》

行財政改革課：宮崎課長、米田参事、若田主幹、山崎主任、

会議内容

1. 開会

2. あいさつ

委員長：

このメンバーによる市民委員会も2年目となった。

今年度もよろしく願いしたい。

3. 新委員自己紹介

4. 議事

（1）市政改革プラン（第8次行財政改革大綱）の策定について

事務局：

昨年5月の市民委員会において市政改革プラン（第8次行財政改革大綱）（以下、「新プラン」という。）を策定する計画を申し上げてから、8月に骨子案や取り組みの概要、11月に市民政策コメントにかける前の素案を説明させていただいたが、その後2月定例市議会での議論を経て、3月にこの新プランを策定した。

（以降、資料1，2に沿って説明。）

委員長：

ただいまの説明や資料について質問はあるか。

A委員：

今示されている実施計画は、これ以降変更することはないのか。

計画によって具体性にばらつきがかなりあり、効果額が設定されていない計画もある。数値を示していない計画は、今後設定することはないのか。

例えば「43：庁内備品の共同利用」は、市役所内のあるものを共同利用する計画で、効果額は出しやすいと思うが、設定していない事に民間の感覚との違いを感じる。数字で示せば効果検証も定量的にできるので、そのようなレベルでのブラッシュアップはした方がよい。

また、次に計画を作る時には、そのような数字は初めから設定した方がよいし、具体性の程度もそろえた方がよい。

事務局：

「４３：庁内備品の共同利用」は現在、備品台帳の整理に取り組んでおり、それ進めば５年間で数値を設定する事もできると考える。

委員長：

他の方はいかがか。

では私からであるが、本委員会以外で行政の計画策定や目標設定を見る機会があったが、新プランで設定された目標は、この水準までは達成しなければ、市政運営で後が大変、というもののなか。それとも無難に達成できる範囲で設定したものなのか。新プラン実施計画はどういう目標なのか。

事務局：

初めての取組もあり、そのような計画ではこれまで実績がなく、目標を立て難い計画もある。一方、継続的に取り組む計画は、今までの目標値に新プランで取り組む新しい手法等による効果もプラスアルファでどれくらい実現できるか見込んで設定する。

委員長：

目標設定はトップダウン的に何か指示があったわけではなくて、ボトムアップ的に各担当課の判断で、一律的ではないということか。

事務局：

新プランの重点は、人件費や物件費の急激な上昇、公共施設の老朽化と他の自治体の平均より多い市民１人当たりの施設数、デジタルの急速な進展、といった事への対応で、中にはこれまで十分に進んでこなかった取組もある。それらに対応するため、目標設定については、幹部での会議やトップとの協議を重ねてきた。また、期間内に必ず目標達成させたい部分については担当課とも折衝をしてきた。例えば、公共施設の再配置の取組については、中学校単位を基本とした地域ごとの計画策定を１００％するという強い思いが目標となっている。

新プランの肝となる計画では、達成できないと将来が厳しくなること念頭に目標設定をしたと考えている。

委員長：

最近ではインフラの老朽化に係るニュースをよく見るが、老朽化により思わぬ費用が掛かることもある。

他の方はいかがか。

B委員：

「２１：地区公民館のLGWAN環境の充実」は、５年間のうち計画期間は３年で完了するようになっているが、達成後はどうするのか。

事務局：

「２１：地区公民館のLGWAN環境の充実」は３年で達成しようと３年間の計画を立てている。３年で達成して終了とするか、課題がある場合など計画変更して継続するかは

やってみて決めていくことになる。

C委員：

市町村合併で増えた施設の数が減らない問題であるが、例えば全国の農協でも同じ問題を抱えており、合併しても旧施設はそのままあるため経営を圧迫している。施設を減らすことについては、その地元の方からいろんな意見があると思うが、行政を健全化するために必要であることをしっかり説明され、理解を得たうえで進めほしい。

しかし今後、鳥取市の行政運営が成り立たなくならないよう、早急に進めてほしい。

また、市内にこだわらず智頭町や若桜町など東部地域で1つあればよい施設があるなら、共同で設置するなどいろいろなやり方があると思う。

委員長：

そういったことに注意しながら、なるべくスピード感をもってやってほしい。

事務局：

インフラの老朽化も喫緊の問題であり、引き続き計画的に対応していく必要がある。公共施設の再配計画の策定については、目標は期間内に100%の地域で達成することとはしてるが、5年間といわずなるべく早く地域との議論を進めるよう担当課にお願いしている。

人件費の問題も施設に通ずるところがあり、施設にも人を配置しているし、直営していない指定管理施設も、管理料に人件費は含まれてくる。

鳥取市の市域は約765㎢とかなり広い。この距離をデジタル化で埋めながら施設の合理化を図っていくことが必要と考えている。また市の取り組み状況をこの委員会では報告等させていただく際には、知恵をいただければと思う、よろしくをお願いしたい。

(2) 今年度のスケジュールと活動報告書について

事務局：

(資料3、4をから説明)

令和6年度は、令和2～6年度を計画期間とする市政改革プラン(第7次行財政改革大綱)(以下、「前プラン」という。)の実施計画への二次評価やヒアリングしていただいたり、新プランの策定のためご意見をいただいたりした。令和7年度は前プランの期間終了により、実施計画に対する二次評価が行わないが、5年間の成果を報告する。また、新プランについても期間開始の年度に当たり実績が出るのが来年度となるが、ヒアリングは行い、新プランへの意見交換をしていただくとともに、実施計画の評価方法に対するご意見もいただきたいと考える。

また、これまでの市民委員会では任期2年間の外部評価結果報告書を作っており、今期も報告書作成を見据えて、ご意見をまとめて行きたいと考えている。

D委員：

任期の最後に外部結果報告書を市長にお渡しした結果、鳥取市にどのような動きがあったかは今期の委員に報告されるのか。次期委員会ではまたメンバーが変わるが、前プランの総まとめに関わった委員として、離れても委員会の意見がどのように市政に反

映されたが知っておきたい。

事務局：

外部評価報告書をいただいた後、ご意見がどう反映されたかについても報告したい。

事務局：

この議題の初めに説明したように、どの実施計画を深堀していくか、次回議論をいただくが、前プラン実施計画で評価シートを用いて評価したように、新プラン実施計画の評価方法についても、こうした方が評価しやすいではないか、といった意見をヒアリング等の中でいただきたいと考えている。

委員長：

それでは予定時間を超過したが、本委員会を終了とする。